

骨髄バンクドナーに対する麻酔管理について

2001年8月 制定

2011年11月 改訂

2014年8月 改訂

公益社団法人 日本麻酔科学会

奉仕の精神に満ちた善意の健康人である骨髄バンクドナーの麻酔管理には、最大限の安全を心がけなければならない。また周術期の苦痛をできるだけ軽くする配慮とともに、ドナーの早期社会復帰を妨げない麻酔管理を行うことが基本となる。麻酔方法の選択に当たっては、以下の事項を考慮に入れなければならない。

- (1) ドナーは、公益財団法人日本骨髄バンクのドナー適格性判定基準を満たした健康成人であり、採取予定日の4～6週間前に採取担当医師により採取前健康診断が行われている。
- (2) ドナーの骨髄採取の日程に合わせて約2週間前からレシピエントの前処置を開始するため、一旦決定した骨髄採取の日程を変更することは極力避けなければならない。
- (3) 骨髄採取は腹臥位で行われる。
- (4) 比較的短時間に約1000ml（ドナー体重/kg×20ml以下）の採取がおこなわれる。採取速度は最大500ml/30分とされている。
- (5) ドナーの80～90%は3～4週かけて約400～800mlの自己血を採血されている。

以上を踏まえた上で麻酔管理を施行するために、公社）日本麻酔科学会として以下のことを提唱する。

- (1) 公益社団法人日本麻酔科学会認定施設であること
- (2) 公益財団法人日本骨髄バンクの骨髄採取マニュアルに定める麻酔担当医としては、公益社団法人日本麻酔科学会が認定する麻酔科専門医・指導医であること。あるいは、厚生労働大臣認可の麻酔科標榜医が担当する場合には、麻酔科専門医・指導医の監督・指導下であること。
- (3) 麻酔管理については、公益社団法人日本麻酔科学会による、『安全な麻酔のためのモニター指針2014.8 改訂』を遵守すること。

これらの諸条件を考慮して、骨髄バンクドナーに対する麻酔管理は、公社）日本麻酔科学会が認定する麻酔科専門医・指導医の監視のもとで施行することを条件として、全身麻酔あるいは区域麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔など）などの具体的な麻酔方法については、担当する麻酔科医の判断のもとで行うこと。

ただし、どのような麻酔方法を用いるにしろ、その長所、短所、合併症、その他の選択肢との優劣をドナーへ十分に説明し、了解を得たうえで施行すること。また、骨髄採取担当医師との十分な意思疎通と綿密な連携をもって、麻酔管理にあたること。